夏、思ひ出

錦田　剛志

例年になく涼しい日の多かった夏がやうやく終はらうとしてゐる。風は間違ひなく秋の気配を感じさせる。そんな秋風を肌身に感じつつ、忘れられない今夏の思ひ出を一つ。

去る八月二十日から二十二日まで、筆者は長野県で開催された文部科学省二十一世紀COEプログラム國學院大學「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」にかかる第四回古代中世の神道・神社研究会に参加する機会を得た。テーマは「古代神社論」。神道文化学部岡田莊司教授のもとに専攻の大学院生、大学院修了者、学部生、学外からの研究者等が集ひ、熱心な研究討議をくりひろげた。例年は、岡田教授のゼミにおける夏合宿として開催されてゐたものをCOEプログラムの一環として拡充のうへ実施されたと聞く。

▲▽

長野では、当地の古社、博物館・資料館、史跡等を見学する一方、午前中や夕方からの涼しい時間を活用して、「古代の神社」を、「神社」とは何か、祭祀空間としての神社、祭祀者、祭神、祭祀の諸相、神社経済史等の各論ごとに研究発表し討論を深めた。

夕食やお風呂の時間を挟みつつ熱心な議論は夜遅くまで続いた。「熱いなあ……」、その熱気、学問に対する情熱、真摯な態度、母校の後輩達とはいへ、久しぶりに感動と興奮を覚えた。何よりも多忙にかまけ怠惰する自己の学問に対する態度を顧みて、自省を促す機会ともなった。実に有意義な学問の時間を過ごした。

彼らの目はいづれも輝いてゐた。筆者が忘れかけてゐた何かを思ひ出させる刺戟に満ちた横顔であった。気がつけば、懇親会の楽しい大酒に人一倍酔ひしれながら、後輩にエールを送る自分がゐた。「社会人になると、なんで学生時代に、あの貴重な自由時間にもっと学問に励まなかったのか痛感します。皆さんも今この時を大切に勉強に励んでください……」といふやうな旨の言葉を発してゐた。生意気な先輩風を吹かせたものだ。今思へば照れ臭い限りである。

▲▽

「若い、若い」と思ってゐた自分の齢がはや三十代半ばを迎へた。気持ちだけは学生と変はらないと思ってゐたのも束の間、もはや現役の後輩たちとは一回りも歳が違ふ。その事実をあらためて、しみじみと感じる機会ともなった。

自らの年齢を意識しだす季節、個人差もあらうが、三十代半ばとはさういふ年回りであらうか。「四十にして惑はず」といふ言葉が近頃よく脳裏に浮かぶ。神主として公務員として、神道研究を志す者として、時間は限られつつある。残りの人生で一体どれだけのことが実現できるであらうか。焦ることはないが、気力と体力を充実させて日々精進してまゐりたいものである。

優秀な後輩達との語らひとあの真摯な眼差しを思ひ浮かべつつ、この貴重な研究会に参画できた幸せを感謝しながら万感の思ひで出雲への帰路についた。

夕映え美しい富士山を車窓に仰ぎ、「いや私もまだ若い、君達には負けないぞ」と、刻苦勉励をそっと胸に誓ひながら……。

にしきだ　つよし　島根・立虫神社宮司